

《薬局サーベイランスコメント》

『2019年第2週のインフルエンザの推定患者数は約168万人と大きなものとなった。更に患者数が増加して大規模な流行となる可能性があり、警戒が必要』

2019年1月15日
済生会中津病院感染管理室
安井 良則

今シーズン（2018/2019年シーズン）の2019年第2週（1月7～1月13日）のインフルエンザの推定患者数は、薬局サーベイランス（<http://prescription.orca.med.or.jp/syndromic/kanjyasuikei/index.html>）によると1,681,072であり、前週（第1週）の値（597,330）よりも3倍近い増加となりました（図1）。既にインフルエンザの1週間当たりの患者数はかなり大きなものとなっていますが、この状況は今週（1月14～20日）も継続するものと予想されます。

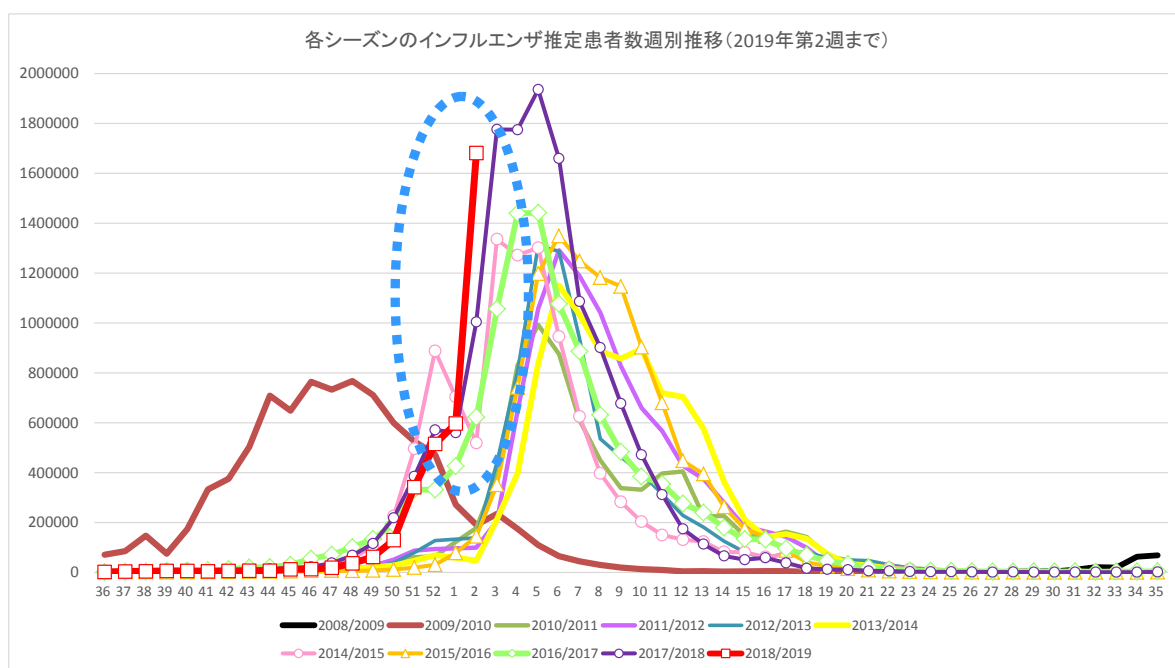


図1. 過去10シーズンと今シーズン（2018/2019年シーズン）の第36～第2週までのインフルエンザ推定患者数の週別推移（2019年第2週の推定患者数：1,681,072）

各都道府県別の第52週の人口1万人当たりの1週間の推定受診者数をみると福井県、三重県、北海道、熊本県、岐阜県、愛知県、高知県、鹿児島県、奈良県、静岡県の順となっており、47都道府県全てで前週よりも増加が見られていて、特に中部地域以西での流行が目立ちます。

2018年第36週から第2週までの累積の推定患者数は3,453,178であり、2018年10月1日現在の人口統計を元にした累積罹患率は2.73%でした。年齢群別での累積罹患率は5～9歳(8.04%)、0～4歳(5.73%)、10～14歳(5.72%)、15～19歳(3.61%)、20～29歳(3.31%)、30～39歳(3.08%)、40～49歳(2.78%)、50～59歳(2.25%)の順となっていて、例年に比べると成人層の罹患率が高くなっています(図2)。

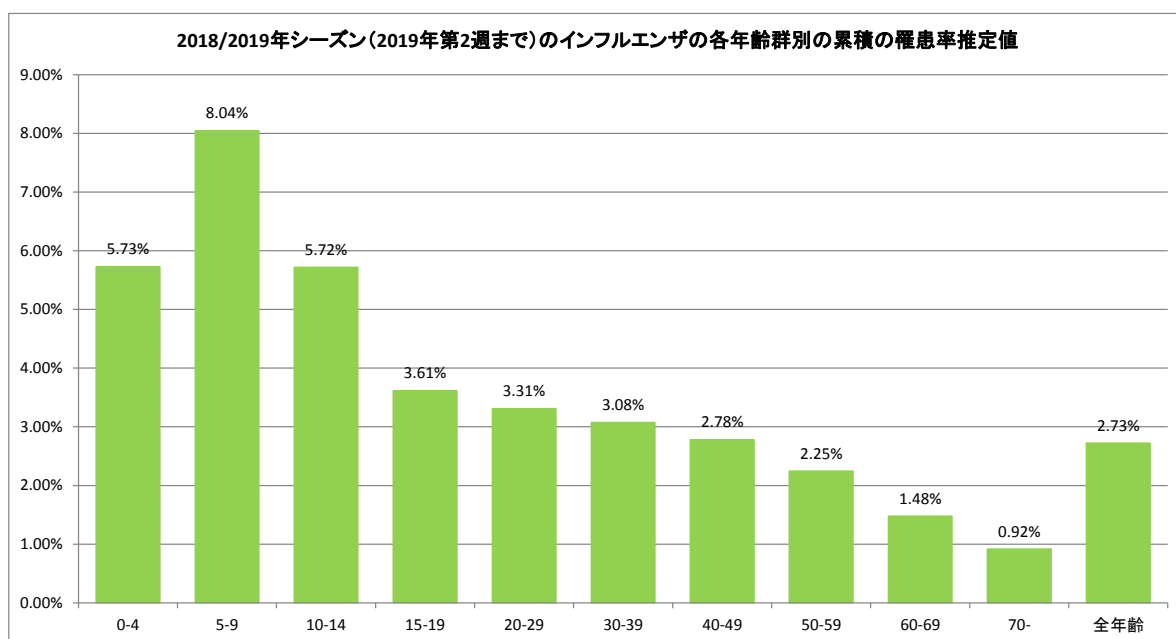


図2. 各年齢群のインフルエンザ累積罹患率の推定値(2018年第36～2019年第2週、累積推定患者数=3,453,178)

国立感染症研究所感染症疫学センターの病原微生物情報(<https://www.niid.go.jp/niid/ja/iasr.html>)によると、今シーズンこれまでのインフルエンザ患者由来検体から検出されたインフルエンザウイルス(662検体解析)は、A/H1pdmが70.4%と多く、次いでA/H3(A香港)亜型28.1%、B型1.5%の順となっています。

2019年第2週のインフルエンザの推定患者数は約168万人と、例年の流行のピークに匹敵する患者数となっており、今週(第3週)はこの状況が継続するか、または更に患者数が増加して昨シーズンに匹敵する大規模な流行に発展する可能性もあります。しばらくはインフルエンザの流行には厳重な警戒が必要です。